

はじめに



第三期中期目標期間（平成 28 年度～平成 33 年度）の 2 年目を迎えた平成 29 年度は、平成 25 年度学部改組の学年進行に応じた海事科学研究科の改編によりグローバル海洋理工学プログラムが稼働し、同時に入学定員の改定（60 名から 75 名へ 15 名増）を行った。また、1917 年川崎商船学校設置認可を起点に、海事科学部創基 100 周年を祝うと共に、神戸開港 150 年、海フェスタ 2017 神戸へ参画した。

これまでの海事科学部・海事科学研究科の自己点検報告書は、海事科学部・海事科学研究科ホームページ（ホーム » 海事科学とは » 自己点検報告書・外部評価報告書）で確認頂きたい。

参照 URL <https://www.maritime.kobe-u.ac.jp/maritime/evaluation.html>

大学全体の国立大学法人評価については、大学ホームページ（ホーム » 大学について » 取組・計画 » 大学評価 » 国立大学法人評価）で確認頂きたい。

参照 URL <http://www.kobe-u.ac.jp/info/project/evaluation/policy-kokuritu.html>

平成 29 年度のトピックの内、本報告書では積極的に触れていない件を含め概要を振り返ると、4 月からの大学院改編と入学定員改定（15 名増）、6 月に独立行政法人石油天然ガス・金属鉱物資源機構（JOGMEC）との包括連携協定締結、7 月に海の日を中心とした神戸開港 150 年ならびに海フェスタ 2017 神戸への参画、10 月 28 日に海事科学部創基 100 周年記念式典の開催、11 月に国立研究開発法人海上・港湾・航空技術研究所 海上技術安全研究所との連携・協力に関する協定締結などの大きな流れがあり、3 月にはストラスブール大学（仏）との博士共同指導（コチューテル）による初めての学位（博士）授与者を海事科学研究科から輩出した。

また、平成 29 年度には、教員 1 名（4 月：助教（電気化学・ナノ界面化学））を新規採用した。

学外の海事社会に目を向けると、独立行政法人海技教育機構（JMETS）との実習協力費（教育機関が JMETS に支払）の協議において、平成 30 年度¥14,000/人・月（平成 16 年 ¥3,000 で始まり、平成 20 年から毎年¥1,000 値上げ）と、これ以降値上げが無いことを合意して決定されたところであったが、財務省が JMETS に対して行った予算執行調査によるコメントを受けて、実習経費の一部（食費など個人に関わる経費）として実習生の個人負担を求めたいとの提案があり、厳しい協議が新たに始まった。

本報告書の目的は、平成 29 年度に行った諸活動の自己点検及び自己評価を行い、次期以降の活動計画の参考材料を提供することである。

第一編では、平成 29 年度に関わる年次計画 9 項目について、目標と対応状況及び自己評価を記載した。

第二編では、平成 29 年度の年次計画 9 項目の自己評価に用いた根拠データを含めた活動内容、即ち、学部における教育活動、大学院における教育活動、研究活動、国際交流活動、社会連携活動、高大連携活動の詳細及び諸活動を実践する上での各種委員会の活動と附属センター・施設の活動を記載した。

第三編では、平成 29 年度のトピックスとして、大学院改編と入学定員改定の概要と現況を示すと共に、海事科学部創基 100 周年および神戸開港 150 年で取り組んだ諸行事の概要を記載した。